

世界史セミナー記録

【第1回 (2009年)】

■日程：2009年7月27日（月曜日）～7月28日（火曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月27日、月曜日）

□講義1 「東京外国語大学で地域史をどう捉えているか」
（鈴木茂）

□講義2 「近世ヨーロッパ国制の再検討ースペイン帝国の構造を中心に」
（立石博高）

□講義3 『『東欧』史の描き方」
（篠原琢）

□講義4 「ジェンダーからみる南アジア近代史：宗教・社会改革、ナショナリズム、国民国家の表象」
（粟屋利江）

□2日目（7月28日、火曜日）

□講義5 「アメリカ革命による共和制から民主制へ」
（金井光太郎）

□講義6 『『トルコ』を軸に世界史をみる」
（新井政美）

□講義7 「中国開封の消えたユダヤ人」
（佐藤公彦）

□講義8 「『ペルシア』か『イラン』か？『ペルシア人』か『イラン人』か？ー国民国家的歴史認識の『虚構』ー」
（八尾師誠）

【第2回 (2010年)】

■日程：2010年8月3日（火曜日）～8月4日（水曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月3日、火曜日）

□講義1 「狩猟採集社会は「文明」の呪縛から抜け出せるか」
（小川英文）

□講義2 「沈黙の共同体—ハンド・サインから見る中世ヨーロッパ」
（千葉敏之）

□講義3 「オスマン帝国史の描き方」
（林佳世子）

□2日目（8月4日、水曜日）

□講義5 「太平洋世界の成立とブラジル」
（鈴木茂）

□講義6 「代表的アメリカ人、フランクリン」
（金井光太郎）

□講義7 「東欧の経験した第二次世界大戦」
（篠原琢）

□講義8 「多民族国家ソ連の構成原理と現実」
（鈴木義一）

【第3回 (2011年)】

■日程：2011年8月3日（水曜日）～8月4日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月3日、水曜日）

□講義1 「ネーション再考—国民国家と諸地域の相克をめぐって」
（立石博高）

□講義2 「中国の商業と商人—明清時代における徽州商人の活動を中心として」
（臼井佐知子）

□講義3 「ラテンアメリカにおける先住民の復権」
（受田宏之）

□講義4 「幕末期日本外交と開港場」
（吉田ゆり子）

□2日目（8月4日、木曜日）

□講義5 「教会刑罰から見る中世ヨーロッパ」
（千葉敏之）

□講義6 「中東・北アフリカ地域における「インターネット革命」の真相—
歴史的評価」
（青山弘之）

□講義7 「《交易の時代》—大航海時代に先立つ15～17世紀のアジア」
（青山亨）

□講義8 「ゲディスバーク演説による国民国家の記憶創造」
（金井光太郎）

【第4回 (2012年)】

■日程：2012年8月3日（金曜日）～8月4日（土曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月3日、金曜日）

全国歴史教育研究協議会東京大会特別講演

「赤道の南には過ちはない：南大西洋と世界史」

（鈴木茂）

□講義1 「「アラブの春」のその後：絡み合う紛争がもたらす「民主化」の阻害」

（青山弘之）

□講義2 「近世日本における差別と地域社会」

（吉田ゆり子）

□2日目（8月4日、土曜日）

□講義3 「東南アジアを中心として見た7～9世紀の仏教世界」

（青山亨）

□講義4 「ホロコーストとマイノリティ：両大戦間中欧の世界史的変動」

（相馬保夫）

□講義5 フランス植民地における農村の変容と「文明化」～チャド共和国の事例から～」

（坂井真紀子）

【第5回 (2013年)】

■日程：2013年7月30日（火曜日）～7月31日（水曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月30日、火曜日）

□講義1 「中世ヨーロッパにおける普遍公会議の機能」
（千葉敏之）

□講義2 「戦間期日本における都市と農村—『生活』という視座から」
（野本京子）

□講義3 「ベトナム人兵士目線から見たベトナム戦争—オーラル・ヒストリーの可能性を探る」
（今井昭夫）

□2日目（7月31日、水曜日）

□講義4 「アメリカ・プリマス起源の神話構築」
（金井光太郎）

□講義5 「まっすぐな国境線と地域間紛争～植民地統治にみる西アフリカの事例から～」
（坂井真紀子）

□講義6 「「テロとの戦い」を通じた「民主化」か、「民主化」という名の「テロ」拡散か？：2000年以降のアラブ世界における政治変動を読み解く」
（青山弘之）

【第6回 (2014年)】

■日程：2014年7月29日（火曜日）～7月30日（水曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月29日、火曜日）

□講義1 「聖人崇敬から見た中世ヨーロッパ—大天使ミカエル崇敬を中心に」
（千葉敏之）

□講義2 「風刺画から見る20世紀初頭の世界」
（小松久男）

□講義3 「モンロー宣言と戦争を終わらせる戦争」
（金井光太郎）

□講義4 「伝単からラオス内戦をみる」
（菊池陽子）

□2日目（7月30日、水曜日）

□講義5 「南大西洋の世界：ロビンソン・クルーソーの航海再考」
（鈴木茂）

□講義6 「「アラブの春」における希望と苦悩」
（名誉教授・藤田進）

□講義7 「時代のなかの農業史研究—『農本主義』を手がかりに」
（野本京子）

【第7回 (2015年)】

■日程：2015年7月27日（月曜日）～7月28日（火曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月27日、月曜日）

□「世界史科研調査結果報告」
（鈴木茂）

□講義1 「なぜいま IS なのかー近現代イスラーム（思想）史から考えるー」
（飯塚正人）

□講義2 「合衆国独立再考」
（金井光太郎）

□大学紹介

□2日目（7月28日、火曜日）

□講義3 「「記憶の日」と「追憶の日」ー戦後イタリアにおける歴史認識と記憶の分断ー」
（小田原琳）

□講義4 「日本近世社会とキリシタン」
（吉田ゆり子）

□講義5 「イスラーム世界と日本を結んだ男ーアブデュルレシト・イブラヒム（1857-1944）」
（小松久男）

□講義6 「歴史をいかに伝えるかーラオスにおける歴史認識の変化と記念日、記念碑ー」
（菊池陽子）

【第8回 (2016年)】

■日程：2016年7月28日（木曜日）～7月29日（金曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月28日、木曜日）

講演 「イスラームから見る近代史（仮）」
（板垣雄三・東京大学名誉教授）

□講義1 「インド史叙述とダリト（元不可触民）の／による歴史」
（栗屋利江）

□講義2 「中国と宗教 —キリスト教からみる中国社会」
（倉田明子）

□講義3 「1812年の戦争:共和国と帝国の冷戦と熱戦」
（金井光太郎）

□2日目（7月29日、金曜日）

「科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性 —科研費プロジェクト3年間の経験から—」
（鈴木茂）

□講義4 「日本の城と樹木 —人びとの暮らしと城との関係に注目して」
（吉田ゆり子）

□講義5 「近世ポーランド・リトアニアの東部地域における宗派問題:殉教事件を例に」
（福島千穂）

□講義6 「イスラーム世界の歴史とイスラーム」
（飯塚正人）

【第9回 (2017年)】

■日程：2017年7月27日（木曜日）～7月28日（金曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月27日、木曜日）

□講義1 「スペイン帝国と複合君主政論」
（立石博高）

□講義2 「歴史からみる香港、香港からみる"中国"」
（倉田明子）

□講義3 「マジャパヒト：14世紀～15世紀東南アジア島嶼部の覇者の実像」
（青山亨）

□講義4 「古き良きアメリカと消費者共和国」
（金井光太郎）

□2日目（7月28日、金曜日）

科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性—科研費プロジェクト
報告—

（鈴木 茂）

□講義5 「シロンスク・スレスコ・シュレージエン（シレジア）
Śląsk/Slezsko/Schlesien (Silesia)：境界地域の現代史」
（篠原琢）

□講義6 「植民地／帝国の歴史と思想—近代日本思想とアジア」
（米谷匡史）

□講義7 「「イスラーム国という現象」とは何だったのか？」
（青山弘之）

【第10回（2018年）】

■日程：2018年7月25日（水曜日）～7月26日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月25日、水曜日）

「科研費研究プロジェクト成果報告」

（鈴木茂）

□講義1 「啓蒙の世紀における軍事思想の展開—軍事改革を支える「知」のかたち（18世紀後半フランス）」

（芹生尚子）

□講義2 「「対テロ戦争」とイスラーム」

（黒木英充）

□講義3 「太平天国の「実像」と「評価」

（倉田明子）

□2日目（7月26日、木曜日）

□講義4 「東アジアの冷戦体制と戦争記憶の民主化」

（米谷匡史）

□講義5 「日本人のモンゴル抑留とウランバートル市建設」

（青木雅浩）

□講義6 「『ズデーテン・ドイツ人』の歴史像と祖国愛—消滅した景観から考える—」

（篠原琢）

□講義7 「ロシアの宗教と文化」

（巽由樹子）

【第 11 回 (2019 年)】

■日程：2019 年 7 月 24 日（水曜日）～7 月 25 日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1 日目（7 月 24 日、水曜日）

□講義 1 「戦争は女性を国民化したか —イタリアにおける第一次世界大戦—」
（小田原琳）

□講義 2 「近世京都の非人」
（吉田ゆり子）

□講義 3 「中央アジア概念から世界史記述を考える」
（木村暁）

□講義 4 「チェコスロヴァキア・ドイツ人の追放をめぐって —異論派の「歴史家論争」—」
（篠原琢）

□2 日目（7 月 25 日、木曜日）

□講義 5 「教科書のなかのロシア」
（巽由樹子）

□講義 6 「世界で 2 番目の社会主義国の実態 —20 世紀前半のモンゴル人の国家建設—」
（青木雅浩）

□講義 「写真が語る 1940 年代初頭の仏領インドシナと日本 —朝日新聞社所蔵写真から—」
（菊池陽子）

□講義 8 「「世界史未履修」から 10 年後の高校世界史教育と地歴科目再編」
（鈴木茂）

【第12回（2020年）】

■日程：2020年7月29日（水曜日）～7月30日（木曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（7月29日、水曜日）

□講義1 「カメルーン英語圏の帰属をめぐる紛争の歴史」
（坂井真紀子）

□講義2 「『和解』をひらく—オーストラリア先住民と日本人」
（山内由理子）

□講義3 「ゾウの涙—ダーウィンと生体解剖論争」
（伊東剛史）

□講義4 「1187年の世界情勢と〈十字軍〉の再定位」
（千葉敏之）

□2日目（7月30日、木曜日）

□講義5 「歴史はトランプ米政権のシリア政策をどう評価するか」
（青山弘之）

□講義6 「異宗派障壁論を超えて—中央アジア近代史の地平から」
（木村暁）

□講義7 「ナショナリズムをどのように記述するか—ハプスブルク帝国史を例として」
（篠原琢）

□講義8 「新教育課程と大学入試—ラテンアメリカ史の視点から考える」
（鈴木茂）

【第13回（2021年）】

■日程：2021年8月2日（月曜日）～8月3日（火曜日）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月2日、月曜日）

□講義1 「第二次世界大戦・イタリアの戦後処理と歴史認識」
（小田原琳）

□講義2 「中世ヨーロッパにおける土地制度を再考する」
（千葉敏之）

□講義3 「「東ヨーロッパ」再考」
（篠原琢）

□講義4 「歴史学における動物的転回」
（伊東剛史）

□2日目（8月3日、火曜日）

□講義5 「ロシア革命とモンゴル」
（青木雅浩）

□講義6 「歴史画の読み方」
（久米順子）

□講義7 「中央アジアのイスラームと聖者信仰」
（木村暁）

□講義8 「高大連携による歴史教育の課題と大学入試—「歴史総合」を手がかりに—」
（鈴木茂）

【第14回（2022年）】

■日程：2022年8月2日（火）～8月3日（水）（オンライン開催）

■登壇者（所属は報告時）・報告題目

□1日目（8月2日、火曜日）

□講義1 「現代史としてのユーゴスラヴィア解体——30年後の地平」
（鈴木健太、神田外語大学）

□講義2 「「歴史の終わり」から「歴史の回帰」へ——国際秩序観の転換と歴史教育」
（春名展生、本学教員）

□講義3 「第二次世界大戦を終わらせる——ヘルシンキ宣言と歴史の見直し」
（篠原琢、本学教員）

□報告と質疑 電子出版『世界史セミナー14年間の軌跡』（仮）作成計画に関して
（吉田ゆり子、本学教員）

□2日目（8月3日、水曜日）

□講義4 「20世紀前半の中国におけるナショナリズム高揚と教科書」
（倉田明子、本学教員）

□講義5 「戦争を教える——日本兵とドイツ兵の戦争経験比較」
（小野寺拓也、本学教員）

□講義6 「朝鮮戦争をいかに教えるか」
（藤井豪、本学教員）

□講義7 「「歴史総合」とラテンアメリカ史——何を学ぶか、どう学ぶか」
（鈴木茂、名古屋外国語大学）